

# テレビ愛媛

## 事業の名称

情報リテラシーリモート授業～ネット時代のテレビ局の役割と災害報道～

## 事業概要

愛媛県内の中学生に「テレビ局の仕事内容」や「どんな思いで報道に取り組んでいるか」などを紹介することで、テレビ局に興味を持ってもらい、仕事や働くことについて考えるきっかけにしてもらおうと企画した。また、「災害報道」を詳しく学ぶことで、改めて災害を考える機会を提供することも本事業の目的とした。2022年4月に松山市教育委員会の協力のもと、松山市内および周辺の中学校から参加校を募集。4校の応募があり、スケジュール調整などの結果、松山市内の3校で実施することとした。

テレビ愛媛のスタジオと学校をオンライン（zoom）でつなぎ、アナウンサーと記者が「ローカルテレビ局の仕事」「ニュースはどのように放送されているのか」「命を守る災害報道」などの各テーマを説明した。

11月4日に実施した「命を守る災害報道」では、2018年の西日本豪雨を当時どう取材し報道したのかを題材とした。現地取材に赴いたアナウンサーと記者が経験をもとに、実際に放送したニュース映像を使いながら解説した。また、災害を伝える報道の役割、災害が起きたらどう行動すべきなのかを生徒に自ら考えてもらった。加えて、どのような番組に興味をもっているのかなどテレビへの関心も尋ねた。

なお、こうした授業の様様をまとめて、2023年2月4日に番組として放送した。

## 【授業の実施】

2022年9月16日（金）13時30分～14時20分

対 象：松山市立城西中学校の2年生146人

テーマ：ローカルテレビ局の仕事、ニュースがどのように作られているか

内 容：まずはテレビ愛媛を知ってもらうため、開局からの歴史、各部署と業務内容などをビデオで紹介した。続いて、「ニュースがどのように作られているか」をテーマに、同じくビデオで紹介。▷愛媛県知事の会見を取材▷原稿作成▷デスクの原稿チェック▷映像編集——という流れを、適宜解説を加えながら説明した。その後、生徒から事前に寄せられていた15問前後の質問に、アナウンサーと記者が2人でかけ合いながら答えた。加えて、その場での質問も受け付けた。寄せられた主な質問は以下のとおり。

- ・アナウンサーや記者の仕事のやりがい
- ・いつも気を付けていること



- ・ニュース番組にアドリブはあるのか
- ・どのように情報を集めているか
- ・一番大変だったことは

11月4日（金）13時25分～14時15分

対 象：松山市立椿中学校の2年生160人

テーマ：命を守る災害報道

内 容：テレビ愛媛の歴史と放送局の仕事について、9月16日の回と同様にビデオを使って説明。災害報道については、西日本豪雨の時に何が起きたのかを改めて解説した。そのうえで当時放送した映像を交えながら、実際に現場で取材にあたったアナウンサーと記者が経験をもとに、どのように取材し報道したのかを話した。また、防災の大切さも伝えた。

11月18日（金）14時40分～15時30分

対 象：松山市立久米中学校の2年生291人

テーマ：ローカルテレビ局の仕事、ニュースがどのように作られているか

内 容：9月16日の回と同じ

**【番組の放送】**

放送日時：2023年2月4日（土）10時55分～11時25分

タイトル：「どうもテレビです」～ローカルテレビができること～

内 容：計3回行ったオンライン授業の様態を紹介した。また、授業を受けた生徒を後日取材し、災害に関するニュースを見てどう感じるようになったかなどを尋ね、その回答も合わせて紹介した。



**事業の成果**

参加した生徒からは、本事業全体に関して以下のような意見が寄せられた。

- ・テレビ局についていろいろ学習することができた。将来に役立てていきたい
- ・テレビ局の仕組みは学校で学ぶ機会がなかった。とても興味深かった
- ・テレビで放送されるまでには、思っていた以上にたくさんの方々関わっていることがわかった
- ・今までよりテレビへの理解が高まった。テレビを見て最新のニュースや情報がわかるようになりたい
- ・インターネットを通じた情報も発信していて、新しい取り組みにも積極的だと思った
- ・SNSなどで配信していることが分かった。「ぜひ見てみたい」と思った
- ・今回の授業を生かして防災への意識を高め、情報にすぐ対応できる備えをしていき

たい

- ・情報を正しく受け取り、命を守る行動をしなくてはならないと思った

「もし自分たちの町で災害が起きたらどうなるのか?」「自分たちは何をしたらよいのか?」などを想定し、西日本豪雨のような大災害に備えることの大切さを学んでもらえるよう授業のやり方を工夫した。生徒に興味を持ってもらおうと、夕方に放送している『EBC Live News』で実際に使用しているスタジオと学校を、オンライン（zoom）でつないで進行した。先生からは、「実際に使われているスタジオと結んでの授業は臨場感があり、生徒も興味津々だった。また、災害報道の大切さや備えの必要性も感じ取っているようだった」などの感想をもらった。



本事業を通じて、多くの生徒がテレビ局や報道に興味を持つようになったと思う。そして、大きな被害が出た西日本豪雨から間もなく5年経つなか、改めて災害の恐さ、備えることの大切さを伝えることで、自分たちで考えるきっかけを与えることができたのではないかな。

さらに、授業の様子をまとめた番組を制作し放送することで、ニュースがどのように作られ放送されるのかを視聴者にも広く伝えることができた。あわせて、参加した中学生世代の「テレビに対する思い」や「考え」なども紹介できたと思う。

#### 【今後の展望】

来年度以降も同様のリモート授業を続けていく考えだが、今後は松山市以外の学校にも広く参加を呼びかけることを検討したい。

以 上